

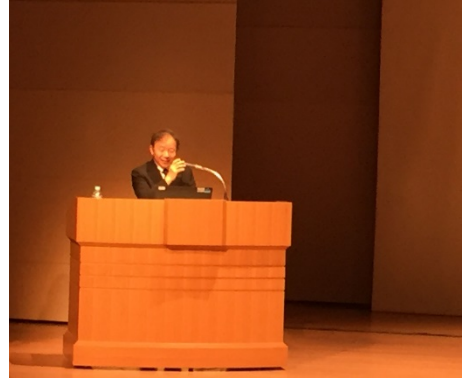
国際溶射会議（ITSC2019）参加報告

国際溶射会議(ITSC2019) が 2019 年 5 月 26 日-29 日の日程で横浜にて開催されました。日本での開催は 15 年ぶりのことで、来場者は 1000 名を超える盛況ぶりでした。

溶射分野においても AD 法には非常に高い関心が寄せられるようになってきており、本センターから明渡純センター長が

“Room Temperature Impact Consolidation Phenomenon for Advanced Ceramic Coating - Aerosol Deposition (AD) Method”

という題目で基調講演をおこないました。AD 法の根幹をなす「常温衝撃固化現象」ですが、同分野で活発な研究活動が展開されている「コールドスプレー法」とも深いかわりがあることから、数多くの溶射研究者から強い関心を引きました。



さらに、その直後に行われたパネルディスカッションでは、「溶射技術の未来」という趣旨で、海外の著名な研究者とともに熱い議論が交わされました。溶射分野も、新たなコーティング技術との融合の中で適用領域の拡大が重要であり、特に AD 法のようなキネティックスプレー技術を取り込み、薄膜領域にも積極的に踏み込みこんで応用範囲を広げていこうという意見の一致を得ました。

翌日の日本の溶射関連産業を紹介するインダストリアルフォーラムでは、JFCA の矢野友三郎専務がファインセラミックスの重要性とそのセラミックスコーティングへの展開について講演を行いました。

また、学術セッションの一部として開催された日本のコーティング研究を紹介するクール・ジャパンシンポジウムでは、当センターから篠田健太郎主任研究員よりハイブリッド AD 法の紹介、鈴木雅人主任研究員より微粒子コーティング支援技術について紹介が行われました。同じく、一般講演においても、Mohammed Shahien 特別研究員の微粒子スプレーコーティング、黒柳昇太氏（代理発表：篠田）の微粒子圧縮評価試験について報告し、厚膜と薄膜の境界領域ともいえるファインセラミックスコーティング分野に微粒子スプレー技術を用いてどのようにアプローチしていくかを紹介いたしました。

